

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373800386		
法人名	社会福祉法人 千寿福祉会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 グループホーム 百		
所在地	岡山県久米郡美咲町書副180-4		
自己評価作成日	平成22年1月27日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatioPublic.do?JCD=3373800386&amp;SCD=320">http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatioPublic.do?JCD=3373800386&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成22年3月2日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人生の先輩である事を念頭に置き、言葉使いにも注意しながら今の一時を楽しく過ごせるケアを実施している。又、納涼祭・文化祭との行事は隣りの施設と合同で開催し、楽しい事の一つでもある、出来る事はして頂きながら職員が側でお手伝いをし、ご家族・ご本人がここで暮らせて良かったと思っ頂けるケアを目指している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「尊厳を大切に・ゆっくりしたリズムで・出来る事はしていただく・いつも私達があなたのそばに…」といった、法人の目指す理念を常に念頭に置いて日々のケアを実践しようとよく努力している。管理者は「今のひと時を大切に」を職員に事ある毎に話し、職員は利用者との関わりの中で些細な「気付き」も可能な限りメモし、ケース記録につなぎ、ケアプランにもものせていくようにしている。利用者一人ひとりの希望や意向にも出来る限り耳を傾け実現させている。今日私とゆっくり話したAさんは「毎回お風呂に入れてもらってうれしい」と話していた。半数は夜間に入浴している。希望で毎回居室で食事をする人も居る。その人のペースを尊重し、個々を大切に考えているホームである。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を玄関に掲げ、人生の先輩である事を忘れず出来る事はして頂きながらお手伝いをさせて頂くケアを心掛けている。	法人が示した理念は管理者の思いとも合致しており、職員にも事ある毎に噛み砕いて話したり申し送り時に確認したりしている。会議の記録や伝達ノートの中からもこういった事例が多く見られる。	理念を踏まえた小目標を職員間で設定してみようとしている所と聞いた。とても良い提案と思う。目標は具体的に少し頑張れば実現出来そうな事、評価し易い内容が良いと思う。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域と離れた場所に位置しているが、法人内での納涼祭、文化祭時に地域の方との交流があり、隣接する施設との交流は日常的にある。	ホームの立地の関係から地域の人とのつき合いは難しいが、敷地内のデイサービスに来る人や隣接の施設の人等との交流はある。母体法人主催の納涼祭や文化祭では、地域の人達やボランティアとのおつきあいがある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方を対象に認知症について学ぶ機会を設けたり、行事等には地域の方に参加して頂くこともあり、又、ホームに地域の方の来所で理解も増えつつある。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの活動状況を報告し、ケアにて困難な事例を相談し、アドバイスをケアに生かしている。町職員の参加もあり、年6回の開催を実施している。	家族・地域住民代表・町福祉課長・健康推進課長・介護支援員等も参加して、2ヶ月に1回、確実に実施。活動状況の報告や多角的な話し合い、質問等がある。「生活の場づくりについて」等の意見交換もある。	適正な運営推進会議を確実に実施していて良いが、利用者本人も参加出来る内容も試みて、グループホームの生活実態をメンバーに見てもらうのも良い。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進協議会にも町職員の参加もあり、ケアマネージャーも現状の確認があったりと関係も築けている。	町の福祉関係の職員は、運営推進会議に必ず出席し、情報提供や質問に答えてくれるし、日常的にもよく電話連絡をしたり指導を受ける等、よい協力関係を築いている。役場の職員は綿密なアドバイスをしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束検討委員にて状況を把握し、月1回の検討を実施。	玄関は施錠していないが、一人居室の窓を乗り越え転落の恐れがあるかもしれないとして施錠している。その他禁止の対象となる行為は無いが、研修をして意識レベルを高めるよう努力している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会実施時、職員会議全体での情報の共有化をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者には成年後見制度の在籍者もあり、職員は概ね理解し支援をしている。又、制度の研修にも参加。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明の時間を設けている。尚、改定時等は説明し同意を得る等十分な説明をして理解を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進協議会への家族の参加もあり、ご意見箱の設置やケアプラン更新時には要望を伺い、運営に反映させている。	玄関に意見箱を置いているが、投函はない。以前一度ある家族から「利用者に対する言葉遣い」について注意を受けたことがある。意見は尊重し、職員間でよく話し合い、以後も続けて注意し合うようにしている。	家族から注意を受ける事はなかなか考えられない。運営推進会議や家族会を開く等して、気軽に家族同志が話し合う場面を用意し、質問してもらえるような雰囲気作りをしてみるのが良いと思う。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見を求めるが全体の時には言いにくい部分もあると思われる為、個別面談の実施をする等している。	職員会議の時間が十分とれないので、管理者は意識して個々の職員と話し、意向も聞いているが、施設長の個別面接も加えて今まで以上に職員の言いたい事に耳を傾ける努力をしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	面会者やご家族により実績に対し労いの言葉を頂いた事を職員に報告したり、職員が少しでも気分転換出来る時間を確保するように努めたりしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は個人面談の実施をし、意見を聞いたり施設内での研修や施設外での研修を受ける機会を設けたりしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所と交流を持つ等し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で利用するに当たり、どのような生活をされているか、又、どのようにしたいかの希望を伺い、サービスを提供するように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にはご家族の思いを伺いケアプランを作成し、状況の変化等あればその都度ご家族と連携を取る。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の要望を伺いながら状況に応じて代替えケアの可能性についても話し合い、ケアの向上に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今の一時を大切に、少しでも楽しみを見つけて頂けるケアをし、出来ることは職員と共にして頂く。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況の変化等その都度ご家族と連携を取り、受診などの連携を取っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	元同僚、ご近所の方の面会時等、次回の面会につながる様な対応を心掛けている。	「さんの顔を見に来たんじゃ」と言って面会に来てくれるかつての馴染みの人達が、「また来てみたいな」という気持ちになってもらえるよう対応している。ホームが集落から離れているので地域へ出掛けるチャンスも増やしたいと考えている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者を理解し、気の合う人同士の席を近づけたり、困難な方には職員が関係を築けるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、ご家族と交流とまではいかないが、利用当時についての会話等はある、新利用につながる事もあり。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人暮らしの方の強い帰宅願望時等は職員が自宅までの送迎をする等して、本人の気持ちに添えるよう検討したりしている。	認知症を患う人達は何も解らなくなっているのではなく自分の気持ちを伝えにくいだけだからじっくり耳を傾けてその人の意を汲み取るよう、管理者は職員にその都度指導したり注意し合うようにしている。	利用者個々の心の中を探る努力はよく窺がえるが、それを職員全員で共有したりケアにつなぐシステムが十分出来ていないと思われるので、よく話し合っってその方法を見つけたい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談やご家族に経歴を尋ねたりして把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックの実施、伝達簿の利用にて職員の情報の共有化をし、状態の変化を見逃さないように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の希望を伺いながら利用者の向上のプランを作成し、又、随時話し合いを実施しながら検討。	何か問題があれば随時に、無ければ半年に1回プランを見直している。管理者とケアマネージャーが中心でプランを作製するが、職員会議で様子を見ながら検証している。本人・家族の意向も伺うようにしている。	ケアプランに対する本人の意向については、可能な人に一緒に考えてもらったり実践してみるのも良いかもしれない。今の内なら働きかけによってはできる人も居るのではないかな。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日々の様子、状態の変化等の記録をしている。又、それを実施するに当たり気づきを要し、それを読むことにより情報の共有化を図り、見直しにつながっている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・ご家族と連携を取りながら柔軟な対応が出来るよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進協議会での地域との触れ合いについて検討したり、地域包括支援センターの協力を頂き、安全で豊かな暮らしを支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じ車椅子の貸出しをしたご家族の受診、職員の付添いによる受診、協力医療機関の利用をしている。	本人・家族の意向に従い、それぞれのかかりつけ医とよい協力関係を得られるよう配慮している。このホームの協力病院とも連絡を密にしている。近くの歯医者へは散歩がてら受診に行く人もあると聞いた。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に利用者の健康管理や状態の変化に応じられる支援を実施し、受診など必要な指示はある体制を整えている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医との連携を図り、病院も相談に応じて下さり、又、早期の入退院も考慮して頂いている関係作りはある。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応方針があり、入所前の説明時や契約時にご家族には説明している。	重度化した場合の対応や指針について、契約時には説明している。今まで最期まで看取った経験は無いが、直前までケアした事も有り、今後とも本人・家族の希望が強く、医療体制や家族の協力・ホームの状況等総合的に判断して、終末期のケアに取り組もうとしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時に備えて勉強会(救急蘇生法)を実施している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網の作成や隣接する施設との協力体制により、年2回の避難訓練を実施。	年2回、「百より」「隣接の施設より」出火を想定して避難訓練を実施している。長崎の事件以後、消防署の点検・指導もある。万一火災が発生した場合、隣接の施設に直ちに通報し、その職員が応援に入るシステムもできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを念頭に置き、今を楽しんで頂けるような配慮、本人を傷つけない言葉掛けを常に心がけている。	原則として午前中はリハビリや皆で楽しむ為のプログラムを、午後はゆったり自由に、という生活リズムを設定してはいるが、思い思いの暮らし方も尊重している。リビングにあまり出たくない人には毎回食事居室で、という自由もある。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉が出にくい方には寄り添いコミュニケーションを図るように努力し、声の出にくい方には発声練習をする等個別対応を実施したりして思い、訴えを傾聴している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中のレクリエーション(動)実施。午後には一人ひとりのペースに沿った個別支援を実施している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時には衣類の選択をして頂いたり、理美容院の利用や入浴の実施により、お洒落、衛生面に注意を図る。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りを一緒にしたり、行事に合わせた食事、旬の物、好みの物を取り入れたり、ご希望の物の購入、又、片付けを一緒にする等している。	今日の昼食はほぼ全員食事を上手に食べていたが、体調や希望によって例えばおかゆやきざみにしたり「食べられないからリンゴを」といった個別対応をしている。できる人には炊事や片付け等してもらっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量の把握や毎日のバイタルチェックを実施し、個別に応じた対応を実施。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	おしぼりの提供や毎食後の口腔ケアを実施し、常に状態は把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の実施をし状態を把握して、一人ひとりに合った方法を考慮し対応をしている。 (紙パンツ使用から布パンツへ等々)	排泄の自立支援には力を入れている。例えば紙パンツを使用していた人も布パンツとパット使用に成功する等、改善している人も見られる。職員間で情報をよく共有し合い、失禁の多かった人も早めの上手の誘導で少なくなっている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取困難者にはケアプランへの取り入れや個別対応にて起床時の牛乳の飲用等の対応をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に応じて毎日の入浴の実施。家族と同様に夜間入浴も実施。	希望者は毎日入浴できるし、半数程は夜入浴している。この事はどのホームも希望しているが実際はなかなか実現できていない。入浴は利用者と職員がマンツーマンになれる「特別な時間」として大切にしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない利用者には昼間しっかり起きて頂くよう声掛け、運動を取り入れ、良眠につながる支援をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については個々のファイルを作成し、用法、用量を理解している。又、服薬ミスのないよう二重チェック等の仕組みで支援している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の楽しみ、趣味を活かしたもの作りやご希望に応じて嗜好品の購入をしたりして気分転換を支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外の空気に触れるように食事会やレクリエーションを中庭を利用し気分転換を図る。	「白百合を捜しに行く」と突然出掛ける人に職員が同行。「寒いから咲いてないねー」で帰路に着く等、周辺の散歩は可能だが、民家から離れているので車での外出となる。行事での外出の他、今後は家族に協力してもらっての外出を増やしたい。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者によって違うが、希望により購入後代金を頂いたりする。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族との交流を大切に自らの希望により電話をしたり、かかってきた時に出て頂いたり連絡のない所へは職員が連絡を入れ本人と交替、又、依頼にて手紙の代筆もあり。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	正月には凧、3月には雛様等季節に応じた飾り、又、亡き御主人の思い出の写真、信仰による御札を設置(居室)等と居心地の良い状況を工夫している。	居間には居場所を複数用意しており、随時席を変えて気分や体位を変化させている。テレビやカラオケセット・ダーツやボール・輪投げ、そして写真や利用者の作品も楽しく見られて日頃の活動の様子がよく理解できる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共に生活する中でソファを対面式にしたり、一人で落ち着ける居場所があったり、気の合う人の同席の配慮、トラブルの予防に努める。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具の搬入、思い出の写真、信仰の御札等の持参もあり、ご家族との話し合いも出来ている。	孫から微笑ましいたよりや神様のお札等、それぞれにその人の姿がかいま見られる居室となっている。招じ入れられた さんのベッドには、目の大きな人形が寝かされており「いってらっしゃい」とか、会話もはずんでいるようだ。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋には経歴につながる品物もあり、思い思いに生活して頂ける状況で、その日の気分や体調に合わせる事が可能である。		